

//// //// 南相馬継続支援活動 //// ////

2017年度は「東日本復興支援活動」は、近年多発する自然災害発生により、「地域限定でない地域支援活動」として位置づけられました。南相馬とのご縁は引継ぎますが“支援”から“交流”へ変化しつつあります。友の会が主体となつてのワークショップの取組はなく、これまでの交流からご縁を引継いだ活動が主となりました。わら工芸 OBG による活動は、地元の指導者育成を目指し、藍染 OG は更にレベルをあげた縫い絞り学習会に進みました。

藁くヒコバエ> (わら工芸サークル OBG) の活動

7月 8-9日 市博物館と市立中央図書館でわらの馬づくり講座

12月 8-10日 赤い屋根工房と地区公民館でお正月飾りと注連縄づくり

今年度は、現地の人々によって「わら馬」等の講習会が実施出来るよう、指導者育成をプログラムの中に入れました。さいわい、南相馬市博物館の担当の方が熱心に取り組んで下さったこと、4年間のわら馬を中心とする講習会を通して、わらサークル藁と現地の方々との、信頼関係も培われたこと等から、実施の運びになりました。

7月の第1回の指導者講習会には、4名が参加し、午後に行った一般向けの講習会では、指導者としての役割を果たせるようになりました。

2回目は12月、鹿島地区の赤い屋根工房での正月飾り講習会に先立ち、新たに加わった2名と計4名での指導者講習会を実施しました。半日を技術の講習、半日は材料を整えるなど、講習会を順調に、かつ参加者が作品を作成しやすいようにする、事前の準備の習得にあてました。

南相馬は、「野馬追い」の歴史と伝統をもつ地であり、「わら馬」への愛着が深く、今後もわら細工の普及は続いて行くものと思います。現地の方達の裁量と力で楽しみながら、これを担って行けるようになることを願っています。

(N)

第1回目(2014年)から参加されている方に声をかけ指導者講習が実現できたことは、受講された方が積極的に関わる契機になりました。地元指導者の方々には参加者に溶け込み、会場が和気あいあいの雰囲気になります。使用する藁も地元で調達することを目標にしましたが、これも徐々に達せられてきました。

支援活動の中で目指していた姿になりつつあり、南相馬に、藁文化が根付くのも遠からずまさに<手仕事でささえあおう>の精神!!

藍染サークル OG の活動 藍染、絞り学習会

7月 11-12日 / 10月 10-11日



南相馬鹿島区の藍染サークルの皆さま

東日本復興支援活動の一環として、南相馬で藍染と絞りに取り組んでいます。縫い絞りが中心でしたが今年は道具を使う技法をお教えることにしました。

1回目(7月)は巻きわらを使っての「竜巻き絞り」を、2回目(10月)は手蜘蛛針を使っての「角絞り(つのしぼり)」に挑戦していただきました。

震災にあわれて5年目の頃より針を動かしながら苦しかった当時の思いを吐露される時期もありました。今では前を向き意欲的に活動されています。(T)